令和７年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
成果報告書
①（基礎データ・公演事業の実績値等）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
施設名	横浜みなとみらいホール
内定額	12,705　（千円）

（1）令和7年度　助成対象事業一覧

※実績報告書様式13－2(2)事業内容 から転記してください。
　複数の事業類型（公演・人材・普及）が助成対象となっている場合は、それぞれすべて転記してください。

事業番号	事　業　名	実施日程	実施会場
人-01	ホールオルガニスト・インターンシップ・プログラム 2025年度 第21期	5月～3月	横浜みなとみらいホール大ホールほか
人-02	2025年度10代のためのパイプ・オルガン・レッスン	11月～3月	横浜みなとみらいホール大
人-03	みなとみらいSuper Big Band	通年	横浜みなとみらいホールリ
人-04	第15回ハマのJACKコンチェルトソリストオーディション「金の卵を探しています」「金の卵見つけました」（受賞者演奏会）	6月15日、6月22日、8月9日	横浜みなとみらいホール小ホールほか
人-05	横浜みなとみらいホール コンポーザー2025-2027　梅本佑利 音MAD　～デジタル・マキシマリズムと音楽～	9月11日、	横浜みなとみらいホール小ホール
普-01	こどもの日コンサート2025	令和7年5月5日	横浜みなとみらいホール大
普-02	オルガン・1ドルコンサート、オルガン・1アワーコンサート	通年	横浜みなとみらいホール大
普-03	横浜みなとみらいホールこどもフェスタ 「みなとみらい遊音地」	8月7日～10日	横浜みなとみらいホール大
普-04	ミュージック・イン・ザ・ダーク® 闇に響く音（邦楽器アンサンブル版）	令和8年2月7日	横浜みなとみらいホール小ホールほか
普-05	学校アウトリーチ	9月、1月、2月	横浜市内小学校・中学校・
普-06	プロデューサーinレジデンス　石田泰尚　弦楽合奏部応援プロジェクト	6月～12月	横浜市内中学校・高等学校、横浜みなとみらいホール
普-07	プロデューサーinレジデンス　石田泰尚プロデュース サロン de ストリングス	5月、6月、9月	横浜みなとみらいホール大ホールほか

（2）〔基礎データ〕

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

【1. 事業本数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
年間事業本数（※1）	主催事業	47	37	37
	公演事業	13	10	11
	（内、本助成対象事業本数）	0	4	0
	人材養成事業	14	11	10
	（内、本助成対象事業本数）	0	4	5
	普及啓発事業	20	16	16
	（内、本助成対象事業本数）	6	5	7
	共生社会事業			
	（内、本助成対象事業本数）			
	その他　内容：　動画配信事業	0	0	0

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

【2. 貸館日数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
貸館日数	ホールごとの貸館日数	314	330	340
	ホール名：大ホール　座席数：2020	102	100	115
	ホール名：小ホール　座席数：440	212	230	225
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			

【3. 施設利用者数（事業利用者数）・開館日数・利用可能日数・利用日数・利用率】

項　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	58,732	46,984	53,652
	公演事業	17,256	13,804	15,644
	人材養成事業	19,836	15,868	15,260
	普及啓発事業	21,640	17,312	22,748
	共生社会事業			
	その他　内容：	0	0	0
	貸館事業入場者・参加者数	227,674	253,000	214,516
	その他　内容：記入してください			
	計	286,406	299,984	268,168
開館日数		335	334	332
施設の利用可能日数 （＝365－（保守点検日数+休館日数））		335	334	332
施設の利用日数		321	316	322
施設の利用率(%) （＝利用日数/利用可能日数）		95.8%	94.6%	97.0%

備考	

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。
劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者、事業関係者（出演者、指導者、スタッフ等）は除きます。
レジデントカンパニー・アーティストの稽古利用等の場合は「その他」に記入してください。

【4. 公演事業データ】

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	事業本数内訳						
					演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※3）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	47	117	58,732		47					
	共催・提携公演（※2）	111	165	160,000		111					
	貸館公演	314	314	227,674		314					
	計	472	596	446,406							
令和6年度	主催公演（※1）	40	94	40,479		40					
	共催・提携公演（※2）	93	130	166,331		93					
	貸館公演	312	312	249,275		312					
	計	445	536	456,085							
令和7年度	主催公演（※1）	37	94	48,000		37					
	共催・提携公演（※2）	110	173	183,894		110					
	貸館公演	340	340	214,516		340					
	計	487	607	446,410							

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

（3）各公演事業における実績値 及び 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標（値）・実績（値）

・公演事業について、助成対象事業ごとに目標（値）と実績（値）を記入してください。
・入場者数・入場者率（目標値）は**「交付申請書」**から転記してください。
・有料入場者数・有料入場者率（目標値）および評価指標・目標（値）は**「評価補助シート」**から転記してください。

※有料入場者率（%）の計算方法＝**有料入場者数÷公演の設定席数（実績値）合計×100**

事業番号	事業名		入場者数	入場者率	評価指標	目標（値）	実績（値）
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

令和７年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

成果報告書

②（評価）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
施設名	横浜みなとみらいホール
内定額	12,705　（千円）

（1）各公演事業の自己評価

「成果報告書①（基礎データ・公演事業の実績値等）」に記載の入場者率・評価指標・実績（値）等に言及しつつ、自己評価と自己評定（※1）を記入してください。

（※1）…S～D で記入してください。

※太枠内に記入してください

事業番号	事業名	自己評価

※行が足りない場合は適宜追加してください。

（2）自己評価

評価項目①：創造性・企画性

（※1）…S～D で記入してください。

評価の観点	・（企画力）地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・（制作力）優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・（発信力・影響力）圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・（レジデントカンパニー・アーティスト）当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

	評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
公演事業			
人材養成事業	育成対象者の満足度（アンケートで「また参加したい」）と回答した人の割合	80%	87.9%
普及啓発事業	観客満足度（アンケートの５段階評価で上位２段階「満足」「やや満足」）と回答した人の割合	90%	96.4%
共生社会事業			

（※3）・（※4）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、事業類型ごとに太枠内に自己評価を記入してください。

公演事業	
自己評価	

人材養成事業	
自己評価	人-01「 ホールオルガニスト・インターンシップ・プログラム」では、元航空管制官および現役社会人の 2 名の参加者を迎えて実施しました。研修内容は、演奏レッスンやオルガンの構造研修の他、ホールの運営研修や MC 研修、横浜市立の小学校全校を対象とした「心の教育ふれあいコンサート」での出演まで多岐にわたり、総合的なホールオルガニスト育成を目的としたプログラムとして展開しました。人-02「10 代のためのパイプオルガン・レッスン」は、参加者アンケートにおいて「また参加したい」との回答が 100%に達しました。今後もホールの事業へ来場したい、継続してオルガンレッスンを受講したいという前向きな感想が寄せられました。人-03「みなとみらい Super Big Band」は、世界で活躍するジャズ作曲家・指揮者の挟間美帆を講師に迎え公開ワークショップを行い技術や表現力の向上に取り組みました。「準備や片付け、人間関係などを通じて積極性の大切さを知った」といった意見があり、演奏機会のみならず、活動全体を通じた自己成長の機会となっていることが確認できました。また、参加者にとって家庭・学校以外の居場所づくりとしての役割も果たしています。人-04「ソリストオーディション金の卵」では、「また参加したい」との回答が 76%となり、他事業と比較して唯一目標を下回る結果となりました。改善してほしい点としては、「講評がほしい」との意見が複数寄せられました。今後の取り組みへの改善点として検討していきます。人-05「横浜みなとみらいホール コンポーザー2025-2027 梅本佑利 音 MAD～デジタル・マキシマリズムと音楽～」は、2002 年生まれの作曲家・梅本佑利にとって、初の公共ホールでの企画演奏会となり、新作 2 曲を委嘱したほか、演奏会制作プロセスや演奏家との協働を実践で学ぶ経験となりました。読売新聞、東京新聞等の中央紙で紹介されました。

普及啓発事業	
自己評価	普及啓発事業は、すべての事業で目標の 90%以上を達成することができました。特に、普-03「みなとみらい遊音地」では、全 9 事業のうち 7 事業で満足度が 100%を達成しており、全体として非常に高い評価を得ました。イベント総称の冠部分を事業内容に即した「横浜みなとみらいホール こどもフェスタ」へリニューアルし、事業内容が伝わる工夫をしました。夏休み期間の事業として、ホール探検、オルガン体験、鑑賞事業など子ども向けの多様なプログラムを実施し、お客様の定着が見られました。今後も夏の事業として継続していくために、ラインナップの見直しや改善を重ねていく必要があると考えます。普-02「オルガン・1 ドルコンサート」・「オルガン・1 アワーコンサート」では、満足度がそれぞれ「オルガン・1 ドルコンサート」92%、「オルガン・1 アワーコンサート」96%の結果となりました。特に「オルガン・1 アワーコンサート」は、前年度と比較して観客数が 150%以上増加しており、事業の認知および定着が進んでいることがうかがえました。また、開演時間を 15 時から 14 時へ変更したことが来場のしやすさの向上につながり、好評を得る要因の一つになったと考えられます。普-04「ミュージック・イン・ザ・ダーク® 闇に響く音（邦楽器アンサンブル版)」は、視覚障がいの有無を超えた演奏家が暗闇で共演し、観客が聴覚等を研ぎ澄ませる鑑賞体験を創出する企画であり、邦楽器アンサンブルとして初めてコンサートホールで実施しました。普-07「サロン de ストリングス」は、音楽家をプロデューサーに迎える「プロデューサー in レジデンス」の取り組みの一つとして、平日の昼間に室内楽の演奏にトークを交えて 1 時間楽しんでいただく普及公演として行いました。プロデューサーが出演者を選定し、室内楽の魅力の普及とともに各アーティストの個性や魅力の発信も目的としました。 3 公演セット券、3 公演スタンプラリーなどシリーズでの来場促進を図り、結果的に全公演で完売になりました。満足度は 97%と高い評価を得ており、平日昼公演への需要が確認されるとともに、次年度へつながる取り組みとなりました。

共生社会事業	
自己評価	

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目②：国際性（任意）

評価の観点	・(国際プレゼンスの向上) 海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流) アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組) 在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。	
	・自由設定の観点（任意）（※２）	

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
海外の現代作曲家の楽曲紹介の機会を作り、情報交換を行います。	4 人の現代作曲家の楽曲を紹介	4 人の現代作曲家の楽曲を紹介。

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	人-05「横浜みなとみらいホール コンポーザー2025-2027 梅本佑利 音 MAD～デジタル・マキシマリズムと音楽～」において、ベン・ノブトウ、ヤズ・ランカスター、エマ・オハロラン、マティアス・クラネビッターの 4 人の現代作曲家の楽曲を紹介しました。コンポーザーの梅本佑利はヨーロッパを拠点に活動する作曲家であり、国際的な評価を得る自身の作品の他、国内でほとんど紹介されていなかった海外の作曲家の作品を併せて紹介し、世界の現代音楽シーンの一端を示すことができました。公演プログラムは、日英の 2 か国語で発信しました。電子音楽の音響設計や海外の作曲家との連携において多くの新しい知見を得ました。また、梅本が 2026 年 5 月に参加するミュンヘン・ビエンナーレ関係者との意見交換も行いました。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目③：地域文化拠点機能

評価の観点	・(文化拠点) 地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携) 地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供) 次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。	
	・ホール利用サービス（貸館事業）の向上（任意）（※2）	
	・自由設定の観点（任意）（※3）	

（※2）・（※3）…R 7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※4）	目標（値）（※5）	実績（値）
学校へのアウトリーチ実施数	5 校以上	6 校
こども対象事業実施数	10 事業実施	15 事業実施
中学生プロデューサーの満足度（アンケートで「また横浜みなとみらいホールの事業企画に参加したい」）と回答した人の割合	70%	88.9%
貸館利用者の満足度（アンケートの 5 段階評価で上位 2 段階「満足」「やや満足」）と回答した人の割合	80%	96%

（※4）・（※5）…R 7 年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	地域の文化拠点として、学校へのアウトリーチやこどもの鑑賞機会の創出に取り組み、目標を達成しました。音楽家をプロデューサーとして迎える「プロデューサー in レジデンス」の第3代プロデューサーに、横浜を拠点とする神奈川フィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターである石田泰尚を迎えました。普-06「弦楽合奏部応援プロジェクト」では、石田自身が横浜市内3校の弦楽合奏部に直々に指導に訪れました。成果発表の場を大晦日公演「石田組年末感謝祭」のプレ演奏として披露したことにより、地域に根差した次世代育成事業の取り組みの周知につなげました。普-05「学校アウトリーチ」では、盲特別支援学校でサックス奏者によるジャズ鑑賞を行いました。横浜とジャズの歴史を辿りながら演奏を披露し、子ども達の新しい音楽体験になることを目指しました。アンケートでは、「初めてジャズを聴きましたが、家でも聴いてみたい」などの声がありました。普-01「こどもの日コンサート 2025」では、神奈川フィルハーモニー管弦楽団や横浜の児童合唱団を出演者に迎え公演を開催しました。演奏会を中学生がプロデュースする中学生プロデューサーの取り組みを継続し、「また横浜みなとみらいホールの事業企画に参加したい」に、88.9%の回答がありました。3年間参加したメンバーからは、「演奏曲を決める選曲会議が白熱したことが印象に残り、3年間の活動の中で最も印象に残った年になりました」との感想があがりました。公演制作を通して、意見交換と協力の中で創り上げる苦労や達成感を知ることにより、社会活動を学ぶ取り組みとして機能しています。普-02「オルガン・1ドルコンサート」・「オルガン・1アワーコンサート」において、地域の文化資源であるオルガンの普及に取り組み、11,482人のお客様を迎えました。普-04「ミュージック・イン・ザ・ダーク® 闇に響く音（邦楽器アンサンブル版）」は、さまざまな人に開かれたホールとなることを目指し、地域のライトセンター、障害者スポーツ文化センター、盲特別支援学校と協働し、鑑賞サポート等を準備しました。人-03「みなとみらい Super Big Band」では、横浜 JAZZ 協会の協力を得て運営し、横浜一帯で行われる横浜ジャズプロムナードや、桜木町駅前のイベントに出演し、街のにぎわい創出に寄与しました。人-04「ソリストオーディション金の卵」では、横浜で活動する NPO 法人ハマの JACK と協働し、地域の人材養成事業に取り組みました。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目④：多様性とアクセシビリティ

評価の観点	・（プログラムの多様さ）プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・（参画者の多様さ）アーティストやスタッフとして参画する人々の属性（性別、年代、居住地、他）が多様である。 ・（アクセシビリティ）障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
社会包摂の実現を目指す事業数	4 事業実施	4 事業実施
特別支援学校、個別支援級との協働プロジェクト数	2 事業以上	2 事業実施
無料公演数	3 件以上	3 件実施
安価公演（入場料 100 円または 1 ドル）の入場者数	6,000 人以上	8,574 人
近隣のインターナショナルスクール等へ告知を行います。	3 事業以上	3 事業実施

（※3）・（※4）…R7 年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	普-04「ミュージック・イン・ザ・ダーク® 闇に響く音（邦楽器アンサンブル版)」など、社会包摂の実現を目指す事業を行いました。(普-04）は、視覚に障がいのある演奏家とない演奏家が出演し、暗闇の中で、誰もが「何も見えない」という同じ条件で音と向き合う音楽体験を目指した事業です。公演当日の開演前に視覚に障がいがあるお客様を対象にコンサートをよりお楽しみいただくための鑑賞ガイドを実施し、当事者が 17 人参加されました。また、ご来場に不安のある方に向けた「ご家族・介助者のための来場ガイド」を事前にウェブサイトで公開したほか、鑑賞サポートとして、点字プログラム、大文字プログラム（黒地に白文字、白地に黒文字)、音声コード付プログラム、プログラム読み上げ動画を用意しました。弱視のお客様から、大文字プログラムの用意が有用であったとのご意見をいただきました。レーザ網膜投影視覚支援機器貸出を行い 5 台の利用がありました。公演満足度は 97%と高く、視覚に障害のある方とない方が共に暗闇で演奏を鑑賞する体験を通じ、共生社会への理解促進に寄与しました。普-05「学校アウトリーチ」における盲特別支援学校でのプログラム実施のほか、特別支援学校、個別支援級対象とした公開リハーサル（助成対象外）を行いました。来場した生徒の保護者から、「家族 4 人で同じ映像を共有することは難しいが、コンサートでは共に聴くことができ幸せな時間を過ごせた」との声が寄せられるなど、ご家族で楽しんでいただけた様子がうかがえました。100 円または 1 ドルの低価格の普-02「オルガン・1 ドルコンサート」、無料でホール見学やミニコンサートを楽しめる普-03「みなとみらい遊音地」内のイベント「オルガン＆ホール探検！」など、普段コンサートに足を運ぶことが難しいお客様にも来場いただける機会を提供しました。「オルガン＆ホール探検！」では、オルガンミニコンサートのオルガン説明、演奏会のリハーサル見学における楽器紹介の手話通訳および来場者対象の手話通訳サービスを実施しました。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目⑤：自由設定（任意）

評価の観点	①　創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性　の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。（※2）
	（演奏家の育成）演奏家のプロデュース能力を高め、企画性の高い取り組みや地域連携や人材育成事業を実施する。 （モニタリング）事業モニターを実施し、事業や広報への改善点を調査する。

（※2）…R 7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
演奏家がプロデューサーとなり、公演や事業を制作する取組「プロデューサーin レジデンス」事業の実施	3 事業実施	4 事業実施
若手作曲家の公演制作経験をサポートし、企画力の育成を行う。	1 事業実施	1 事業実施
レジデントアーティストであるホールオルガニストのプロデュース能力を高め、企画性の高い取り組みや地域連携、人材育成事業を実施する。	6 事業実施	6 事業実施
事業モニター懇談会への参加人数	20 人以上	24 人

（※3）・（※4）…R 7 年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	演奏家と協働し、企画性の高い事業を行いました。「プロデューサーin レジデンス」事業として、普-06「弦楽合奏部応援プロジェクト」、普-07「サロン de ストリングス」のほか、「石田組年末感謝祭」、「石田泰尚＆石井琢磨リサイタル」の 4 事業を実施し、創造性の高い公演を通じたホールのブランディング向上をはじめ、地域に根差した次世代育成や室内楽の普及公演など、多方面にわたる取組みを実現しました。人-05「横浜みなとみらいホール コンポーザー2025-2027　梅本佑利 音 MAD ～デジタル・マキシマリズムと音楽～」では、2002 年生まれの若手作曲家・梅本佑利氏を迎え、2 カ年にわたる共同事業の初年度として事業を実施しました。新規性と創造性を示す事業となり、アンケート結果では、初来場者が 53%、30 代以下が 44%を占め、若年層の来場促進につながりました。一方で、来場者数は目標に達しなかったことが課題のため、2 年目の取組みにおいて改善を図ります。ホールの象徴であるパイプオルガンを活用した事業として、人-01「ホールオルガニスト・インターンシップ・プログラム」、人-02「10 代のためのパイプオルガン・レッスン」、普-02「オルガン・1 ドルコンサート、オルガン・1 アワーコンサート」、普-03「横浜みなとみらいホールこどもフェスタ　「みなとみらい遊音地」」のオルガン体験講座を 2 講座実施し、合計 6 事業展開しました。ホールオルガニストの提案により開始した人材育成プログラム（人-02）の修了生には、大学のオルガン科志望者や、音楽大学の副科でのオルガン履修者が現れるなど、次世代育成の成果が出ています。主催・共催事業 4 公演を対象に事業モニターを実施し、モニター29 名中 24 名が参加した懇談会において、事業および施設に関する意見を聴取しました。これにより、新たな気づきや改善に向けた指摘を得ることができました。懇談会で得られた意見を踏まえ、今後の改善につなげていきます。

（2）自己評価

その他：エピソードやグッドプラクティス事例について

助成対象事業に関連して、心に響くような印象的な出来事や、他館の参考になるような好事例があれば、具体的にご記入ください。

普-01「こどもの日コンサート 2025」では、中学生が制作に参画する「中学生プロデューサー」の取り組みを行っています。2000 年より毎年 5 月 5 日に「こどもの日コンサート」を開催し、長年ホールスタッフが企画・制作を担ってきましたが、子どもたちにより主体的に関わってもらうことを目的に、2021 年から「中学生プロデューサー」事業を開始しました。本事業では、公募により集まった中学生が公演の企画、広報、当日運営に至るまで制作全体に関わっています。2021 年の開始以来継続して実施しており、2025 年度で 5 年目を迎えた取り組みです。企画・広報の各チームに分かれ実務を担う体制で、選曲や構成検討、広報、来場者対応等を経験します。ホールスタッフや各分野の専門家が伴走しながらも中学生の主体的な判断を尊重しています。その結果、中学生の発案による来場者参加型企画やロビーパフォーマンス等が生まれ、公演内容の充実につながっています。参加者からは「納得いくまで話し合うことでより良い案が生まれた」「大人数の前で話す自信がついた」「他者の意見を聞きながら一つのものを作るやりがいを感じた」といった声が寄せられ、当初は発言に消極的であった生徒が主体的に意見を述べるようになるなど、主体性や協働性の向上が見られました。また「人と話すのが苦手だったが多くの人と関わる中で成長を実感した」「自分のやりたいことが見つかった」といった前向きな変化を感じる感想もありました。さらに来場者からは「中学生の姿に我が子を重ね胸が熱くなった」「自信を持って対応する姿に感銘を受けた」等の声が寄せられました。さらに、「我々大人が考えつかないような事、また自由な発想での選曲、企画を進めていく様子は、私自身大変刺激と気付きになりました」「これからを担う世代の方々に私達の仕事を知っていただき、実際に体験していただけた事はありがたい」といった評価が関係者より寄せられ、次世代に留まらぬ、多世代育成事業としての波及効果が生まれています。有志メンバーが翌年度の企画に参画する仕組みが定着し、継続的な取り組みとして機能しています。5 年間の実施を通じて、本制度の取組内容や成果等が蓄積されてきたため、事業報告書を作成し、ホームページで公開しました。本取り組みのノウハウが他施設における文化事業の企画・運営の参考となることを目指し、広く共有できる形で発信しました。

普-04「ミュージック・イン・ザ・ダーク® 闇に響く音（邦楽器アンサンブル版）」では、視覚障がいのある演奏者とない演奏者によるアンサンブル公演を開催いたしました。当ホールでは 5 回目の開催となり、暗闇で演奏を聴くという唯一無二の鑑賞体験としてリピーターも生まれ、公演は完売となりました。当日は約 30 名の当事者を迎え、東京藝大学生と制作した鑑賞ワークショップには過去最多となる 17 名が参加し、各種サポートツールも好評を得ました。実施後には当事者・関係者・出演者からフィードバックを収集し、今後に向けた知見の蓄積を行いました。来場者からは「盲目の方々の想いや感触をほんの少しだけとは思うけど体験出来て良かった」「自分が晴眼者であるから得られている情報に無自覚であることに気付かされた」等のコメントが寄せられ、共生社会の理解促進に資する成果が認められました。また、視覚障がい当事者の出演者からは、「福祉的な視点に留まらず、演目を含む“質の高い音楽作品”として音作りに参加できた。視覚障がい者に“何かをしてあげる”という上から目線ではなく、暗闇という共通空間で純粋に音楽の素晴らしさを届けるというコンセプトが、出演者・観客の双方に正しく伝わっていることに深い意義を感じた」とのコメントが寄せられ、本事業はインクルーシブな取り組みにとどまらず、純粋にコンサートとして音楽を楽しむ場として成立していることがうかがえます。公演には、市内の支援施設や、他県の劇場関係者による視察もあり、新たな連携の構築に向けた契機となりました。ノウハウの蓄積やマニュアル化によって、他県の文化施設のインクルーシブ研修プログラムの監修を受託し、同県での公演実施にもつながりました。その他の県の劇場関係者等による視察もあり、新たな連携構築の契機となりました。

（2）自己評価

評価項目⑥：運営体制と持続可能性

（※1）・（※2）…R7年度評価補助シートから転記すること。
※太枠内に記入してください

○「実現性」の項目より〈(ア）～（エ)〉

評価の観点	（ア）多様な財源の確保 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	（イ）広報・営業力 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。
現状（※1）	各種助成金や協賛金の獲得に努めている。	年間の広報計画を策定し、情報発信している。SNS(X,Instagram,Youtube)での発信を強化する。
目標(値)（※2）	文化庁以外の助成金獲得 2 件、協賛金の獲得 4 社以上。	出演者の PR コメント動画 10 本以上。SNS 総フォロワー数 2,000 人増。
実績(値)	文化庁以外の助成金獲得 3 件、協賛金の獲得 11 社	出演者の PR コメント動画 14 本。SNS 総フォロワー数 4,165 人増。
団体の自己評価	かけはし芸術文化振興財団、神奈川県マグカル展開促進補助金、三菱 UFJ 信託芸術文化財団の助成金を獲得しました。	出演者の PR コメント動画や活動紹介などの発信を強化し、YouTube 登録者数が 2,782 人増加しました。

評価の観点	（ウ）他館連携 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	（エ）設置者 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。
現状（※1）	他館との事業連携やアウトリーチを行っているが、さらに連携を強化する。	適切に情報共有を行っているが、修繕の必要な箇所等、随時報告し協議を行っている。
目標(値)（※2）	5 事業以上実施。	設置者との月次モニタリング 12 回、定例会議 2 回。
実績(値)	5 事業実施。	設置者との月次モニタリング 12 回、定例会議 2 回実施。
団体の自己評価	福井県文化振興事業団主催「インクルーシブ研修プログラム」および「ミュージック・イン・ザ・ダーク®」福井公演の事業監修を行い、当ホールの蓄積したノウハウの共有を行いました。	計画どおり会議を実施し、適切に情報共有を行いました。

○「持続可能性に関するチェックシート」より〈(オ）～（セ)〉

評価の観点	（オ）芸術監督 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	（カ）長期的経営 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。
現状（※1）	芸術面を統括する人材が配置されており、館長が芸術監督の役割を担っている。	総支配人 1 名が配置されている。
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価	館長が芸術監督の役割を担い、公演事業と共に社会包摂事業やこども事業を監修し、幅広く事業を展開しました。	管理グループ、事業企画グループを統括する総支配人が 1 名配置されており、館の運営を適切に行いました。

評価の観点	（キ）専門人材の確保 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	（ク）職制の整理 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。
現状（※1）	チーフプロデューサー1 名、プロデューサー1 名配置。財団全体での舞台芸術系専門研修に制作担当、広報担当が参加している。	事業企画グループ内にプロデューサーの他、予算管理等を行うグループ長、広報を行う広報担当者が配置されている。
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価	チーフプロデューサー1 名、プロデューサー1 名が配置されており、財団全体での舞台芸術系専門研修に制作担当、広報担当が参加しました。	事業企画グループ内にプロデューサーの他、予算管理等を行うグループ長、広報を行う広報担当者が配置され、役割分担し業務を遂行しました。

評価の観点	（ケ）世代間バランス 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている（若年層の雇用に努めている）。	（コ）ジェンダーバランス 女性管理職比率が 30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。
現状（※1）	新採用の若年層がバランスよく配置されている。	館長および総支配人が女性であり、比率を超えている。女性活躍推進法えるぼし認定 3 つ星（最上位）認定を取得。
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価	新採用の若年層が、経営グループに 1 名配属され、館全体として若年層から再雇用人員までバランスよく配置されています。	館長、総支配人、経営グループ長、事業企画グループ長が女性であり、比率を超えています。令和 6 年度に財団が、女性活躍推進法えるぼし認定 3 つ星（最上位）認定を取得しています。

評価の観点	（サ）ワークライフ・バランス 仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	（シ）コンプライアンス順守 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。
現状（※1）	制度が整備され推進されており、神奈川県子育て支援に取り組む事業者の認証制度の認証を取得。	順守規定を策定し、必要な研修を行っている。
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価	制度が整備され推進されており、事業企画グループの職員 2 名が育児休業、産前産後休業を取得しました。	順守規定を策定し、階層別研修や個人情報保護研修など必要な研修を行いました。

評価の観点	（ス）ハラスメント防止対策 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	（セ）適正な契約事務 アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。
現状（※1）	指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	適正な契約書を交わしており、今後も継続して適正に事務を行う。
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価	指針等を策定・周知。財団事務局にハラスメント相談窓口を設置し、必要な研修を行いました。	インボイス制度やフリーランス法に対応した契約書を取り交わし、適正に契約事務を遂行しました。

（3）総評

※太枠内に記入してください。

団体の自己評価
「プロデューサー in レジデンス」を軸に演奏家と協働し、芸術性・創造性の高い事業、次世代育成、普及公演と多方面にわたる取組みを展開しました。その結果、ホールの魅力向上や新規来場者の獲得につながる成果が見られました。創造性・企画性の面では、人材養成事業において多様なプログラムを展開しました。若年層向け事業での満足度が高く、継続参加への意欲や自己成長につながる様子も見られ、参加者にとって有意義な機会となったと考えます。一部事業において講評を求める声が寄せられたことについては、今後の課題として改善を検討していきます。普及啓発事業は、全体として目標を達成し、子ども向け企画やオルガンのシリーズ公演を中心に認知の広がりを感じる結果となりました。国際性の面では、海外を拠点に活動する若手作曲家の公演を開催し、国内で紹介機会の少ない海外作曲家を取り上げ、新規性・創造性のある事業となり、新しい観客の取り込みに成功したと考えています。電子音楽分野における新たな知見の獲得も含め、今後の事業展開につながる成果が得られました。地域の文化拠点機能としては、弦楽合奏部応援プロジェクト、学校アウトリーチ、中学生プロデューサーなどを通じて、地域拠点としての機能を発揮し、一定の成果を上げることができました。弦楽合奏部応援プロジェクトは、広報の働きかけにより複数のメディアに取り上げられ、取り組みを広く発信することができました。また、成果発表の機会を公演と結びつけることで、観客への活動の周知につながりました。多様性とアクセシビリティの観点においては、社会包摂の実現に向け、視覚に障がいのある演奏家とない演奏家が共演する演奏会を開催し、鑑賞ガイドや多様な鑑賞サポートを提供しました。満足度は97%と高く、多様な人々に開かれた公演として成果を上げました。他県のホールへの研修事業の監修を担い、ノウハウ広げていく取組みを実施しました。さらに、事業モニター制度の実施により、改善に向けた気づきを得ることができており、今後の事業運営に活かしていきます。全体として一定の成果を上げたと捉えていますが、課題を踏まえ今後のさらなる事業内容の発展を目指します。

備考